

経営者への活きた言葉

会社がおかしくなる6つの要因 永守 重信(日本電産社長)

1. 会社がおかしくなる要因の一番目はマンネリでしょう。それから油断、そして驕り。人間はすぐこういつまづきをするのですが、この段階はまだ元に戻せるのです。その次が妥協。震災がおきたのだからしょうがない。円高だからしょうがないと妥協する。これはもうさらに落ち込みます。次は怠慢です。頑張っても怠けても給料は一緒じゃないかとかね。そして最後は諦めです。そんなこと言ったってできません、という考えがはびこってきた時は末期症状です。
2. 最初の3つはそんな大敵ではないけれど、後の3つに陥ったらもう取り返しがつきません。そして一番怖いのは、後から入ってくる幹部が昔の苦労を経験していないために、一流企業に入ってきたような感覚で振る舞うことです。そういう人たちには口で言っても伝わりませんから、プレハブ建屋(日本電産本社の1階に設置している創業当時の作業場)を見せるのが一番です。
3. 最近一流大学から入社してくるようになりましたけど、一番大事なのは、日本電産が好きだという人間、よく働くこの会社で自分も一緒に頑張りたいという人間が集まってくることです。ただ有名で給料も高いから入りたいとか、役員として入ってきて威張り散らすような気持ちでやられると、会社はあっという間に沈んでいきます。

(参考:「致知」2011年10月号)

経営者のための危機管理

経営機能の分散化

1. 東日本大震災を機に「経営機能の分散」の重要性を認識し始め、行き過ぎた経営資源の集中を見直す動きが産業界に広がっている。そのパターンは次の5つに大別される。
 - ①生産拠点の分散
 - ②調達先の分散
 - ③物流機能の分散
 - ④売り先の分散
 - ⑤その他機能(本社、データセンターなど)の分散。
2. このうち最もポピュラーなのは、①生産拠点の分散だ。また、②調達先の分散をこの機会に検討する企業も増えている。例えば、東芝は岩手東芝エレクトロニクスの製品を大分工場などで代替生産。堀場製作所は京都で生産している主力製品を、新設の阿蘇工場でも生産、等である。

(参考:「日経ビジネス」:2011年6月13日号)